主語選定における相反する傾向

- 1. 無生物主語を取る英語 対 人間主語を取る日本語
- ◆ (1) The heat makes me feel languid. (Chamberlain)
- * #熱気が私をだるく感じさせる。→暑いので私は身体がだるい。
- ◆ (2) Despair drove him to commit suicide.
- ◆ 絶望が彼を自殺へ追いやった。→ 希望を失って彼は命 を絶った。
- ◆ (3) What brought you here?
- *何があなたをここに連れてきたのか。→ あなたは何故ここにきたのですか。(小島)
- ♦ (4) This bus will take you to the station.
- このバスはあなたを駅に連れて行きます。→ このバスに乗れば駅に行きます。

- ◆ (5) This medicine will cure your cold quickly.
- ◆ #この薬は風邪を直ちに治します。→ この薬を飲めば風 邪はすぐに治ります。
- (6) His words surprised me.
- ◆ 彼の言葉は私を驚かせた。→ 彼の言葉に驚いた。
- ◆ (7) Rain prevented us from going on a picnic.
- *雨がピクニックに行かせなかった。→ 雨でピクニックに行けなかった。
- (8) I'm sorry. The curve threw me.
- ◆ ごめんなさい。 *カーブが私を投げたものですから。
- → ごめんなさい。カーブで体がゆれたものですから。

日本文学の英訳から

- ◆ (9) 親譲りの無鉄砲で子供のときから損ばかりしている。 (夏目漱石『坊ちゃん』)
- a. Ever since I was a child, my inherent recklessnes has brought me nothing but trouble. (Alan Turney(Br.))
- b. From childhood I have suffered because of the reckless nature I inherited from my parents. (Burton Watson(Am.))
- c. Because of an hereditary recklessness, I have been playing always a losing game since my childhood. (Yasotaro Mori)
- d. A great loser have I been ever since a child, having a rash, daring spirit, a spirit I inherited from my ancestors. (Umeji Sasaki)

2 人間中心の英語 対 状況中心の日本語

- ◆ Alfonso, Anthony (1971) Japanese Language Patterns: A Structural Approach. 上智大学
- ◆ (11) (アメリカ人)"He's got one!"
- "He's caught one!"
- ◆ (日本人) ああ、つれた。
- ◆ あ、かかった。
- ◆ (12) (アメリカ人) He's doing pretty well
- ◆ (日本人) よくとりますね。
- **◆** よくつりますね。
- ◆ (13) たくさんつれましたね。

- (14) "There's Mt. Fuji"
- "Look, you can see Mt. Fuji"
- "Y'see Mt. Fuji?" -
- ◆ (15) 富士山が見えました。
- ◆ (16)a. あ、見えた、富士山が。
- ◆ b. あ、富士山が見えた。